

国語科を中心とした学びに向かう力の育成

副題

～学校図書館での主体的な学び～

キーワード

学校図書館、国語、ICT活用、タブレットパソコン、学び方

学校名

西宮市立塩瀬中学校

所在地

〒669-1136
兵庫県西宮市名塩木之元2番8号

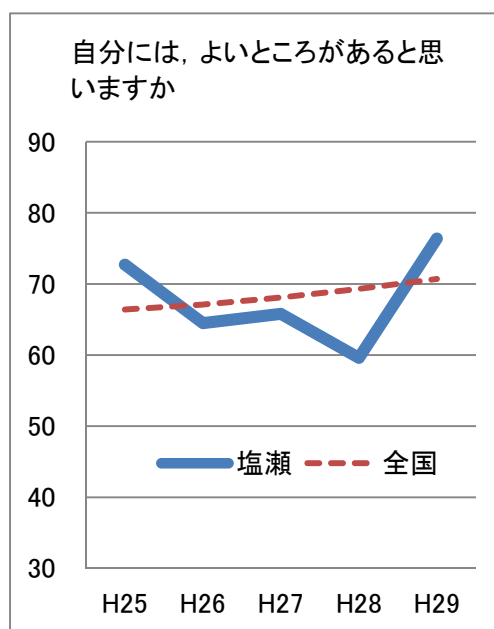
ホームページ
アドレス

<http://kusunoki.nishi.or.jp/school/shiosej/>

1. 研究の背景

本校の生徒は、誠実な性格の生徒が多く、何事にもこつこつ努力することができる。しかし、学力調査の結果(図1)を分析すると、全国平均と比較して、自尊感情が低いことや自分なりに工夫して学習する態度などに課題が見られる。昨年度より、授業の中でグループ学習や調べ学習を意識して取り入れ、一定の成果が見られるようになってきた。

そこで、平成28年に整備されたタブレットパソコンや校内ネットワークをフルに活用し、学校図書館で資料を自ら収集し、グループで学びあい、自らの考えをまとめ発表することで、学ぶことの楽しさや、自己有用感などを実感させたい。このことにより、本校生徒の課題である自尊感情を高めることにつなげることができると考える。



全国学力・学習状況調査(図1)

2. 研究の目的

生徒の豊かな学びを確立するため、本研究では、国語(全学年)の授業において、週1時間、図書館などで複数教員による授業を実施する。すでに整備されているタブレットパソコンや蔵書なども活用しながら、自ら学びを深めるスキルを身につけていく。

グループで学習することで、仲間の考えに触れ、自分の考えを伝えることで、集団で活動をする楽しさを実感させたい。

国語で身につけたスキルにより、他教科の授業スタイル改善につなげていく。このため、校内研究会には、全ての教員が参加し、生徒の学びについての研究を深める。



本研究を始めるにあたり、以下の2点について準備を行った。

指導体制の整備

国語科全学年（22学級）で、週1時間を複数指導が可能になるよう国語科の教員6名を配置する。内1名は新学習システム推進教員（加配）とし、時間割を設定した。

環境整備

まず、蔵書をリニューアルし、最新の情報を得ることができるようにした。また、図書館内で、情報の比較などができるように新聞ラックを整備した。生徒の調べ学習をスムーズに行うため、資料を探し出す時間短縮が必要であると考え、日本十進分類法による蔵書の配架に変更した。



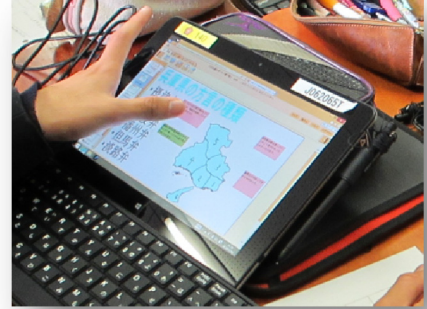
3. 研究の経過

月日	取り組み内容	評価のための記録
4月25日	I C T活用研修会① 図書館内のI C T環境について、市教育委員会指導主事より研修を受ける。	研究計画の策定（教員）
6月8日	社会科、数学科授業研究会 グループ学習について、研究会を持つ。 講師：大阪教育大学 土田光子先生	指導助言の記録（講師）
8月28日	小中学校合同研修会 I C T活用分科会	アンケート調査（生徒）
9月28日	I C T活用研修会② (グループ学習用コンテンツ活用研修)	指導案の策定（教員）
11月7日	国語科授業研 講師：全国学校図書館協議会 sv 佐藤敬子先生	指導助言の記録（講師） 指導案の策定（教員） 図書館の環境整備（教員）
11月15日	英語科、音楽科授業研究会 講師：大阪教育大学 土田光子先生	指導助言の記録（講師）
1月8日	国語科授業研 アンケート調査に基づく指導法の研究	アンケート調査（生徒） 指導案の策定（教員）
1月24日	保健体育科、理科授業研究会 講師：大阪教育大学 土田光子先生	指導助言の記録（講師）
1月26日	I C T活用研修会③ (グループ学習用コンテンツ活用研修)	指導案の改訂（教員）
2月2日	提案授業（1, 2年公開）、公開研究会 講師：全国学校図書館協議会 sv 佐藤敬子先生	指導助言の記録（講師） 提案授業の感想（参加者）

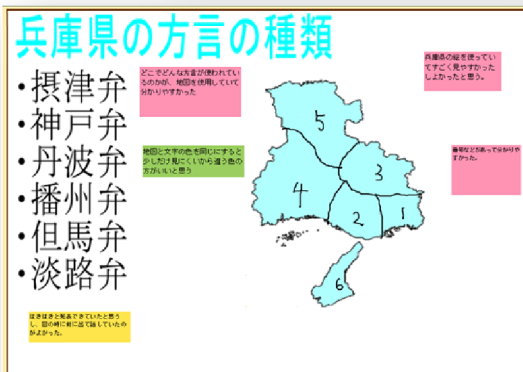
4. 代表的な実践

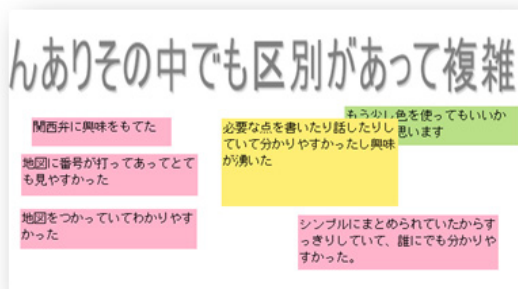
(1) 魅力的な提案をしよう ―プレゼンテーションをする―

各自が興味を持ったレポート（日本語の不思議）を持ち寄り、グループ内で話し合う。グループ内では、テーマを絞ったり、発表を分担したりする。クラス内でグループごとにプレ発表を行い、聞いていた生徒は、グループ学習コンテンツを使い、感想や評価を付箋機能を使い、コメントを貼り付けていく。他の生徒の意見も取り入れながら、最終発表用のプレゼンを完成させる。



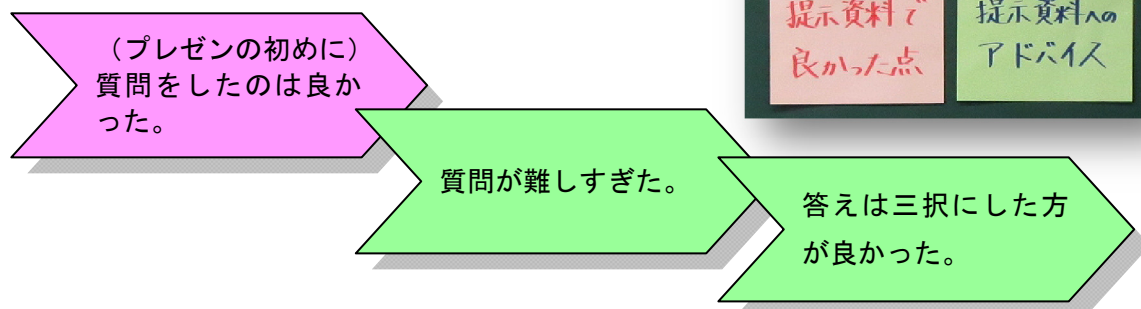
時	内 容
1 時	伝えたいことの案を出し合う 各自が調べてきた日本語の不思議について、グループ内で発表し合う。仲間のレポートを評価し、どのテーマで発表するのかを決定する。
2 時	提案の要点を整理 伝える相手にとって魅力的な提案になるように、提案の要点を整理し、組立を考える。
3 時	持ち寄った資料の整理 資料づくりの分担 プレゼンファイルは4ページとし、一人1ページ作成する。どんな資料が必要かを考え、資料づくりの分担をして、進行案を作成する。
4, 5 時	プレ発表 順番に班ごとに発表をする。発表はメモをとりながら聞き、メモした内容を、グループ学習コンテンツの付箋機能を使って、プレゼンファイル上にコメントを貼っていく。生徒は、自分のファイルに貼られたコメントを参考に、修正を加えていく。
6 時	最終プレゼンテーション発表会 発表方法の工夫やプレゼンファイルの修正を班ごとに行った上で、最終プレゼンテーションを行う。互いの提案を評価し合い、学習を振り返る。





普通教室で、生徒一人1台配られたタブレットパソコンを使い、プレゼンファイルの付箋機能を使ってコメントを貼っていく。付箋は、あらかじめ色分けをしておき、話し方、提示資料について、それぞれよかった点・アドバイスに分けている。

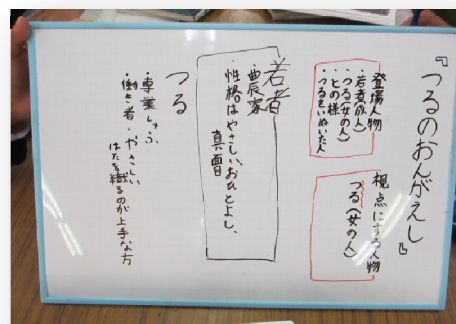
中には、具体的なアドバイスも多く、付箋が増えるにつれて、具体的なアドバイスから解決策を書いている生徒もいた。



(2) 学び方を学ぶ ー視点を変えて昔話を作ろうー

物語の登場人物を違う誰かの視点に変えて、物語を書きなおしてみる。

西宮市北部図書館をお願いをして、同じ物語でも出版社が違う昔話を準備していただいた。生徒は、学習班(4人)ごとに話し合い、気付いたことをミニ・ホワイトボードに付箋を貼ってまとめていく。単に物語に違いや共通点があることに気づくだけではなく、対話的な学びの中で、自分とは違った意見に触れることで、自己の考え方を広げ深めることができた。取り組みの中で、「人と話すことや、友達とともに学ぶことが得意でないが少しずつできるようになった。」と、2学期の振り返りで書いている生徒がいた。



授業の進め方について、生徒が見通しを持って取り組めるよう、具体的な成果物を示し、目標に向かって、主体的に学ぶことができた。成果物は、校区内小学校に配付する予定。

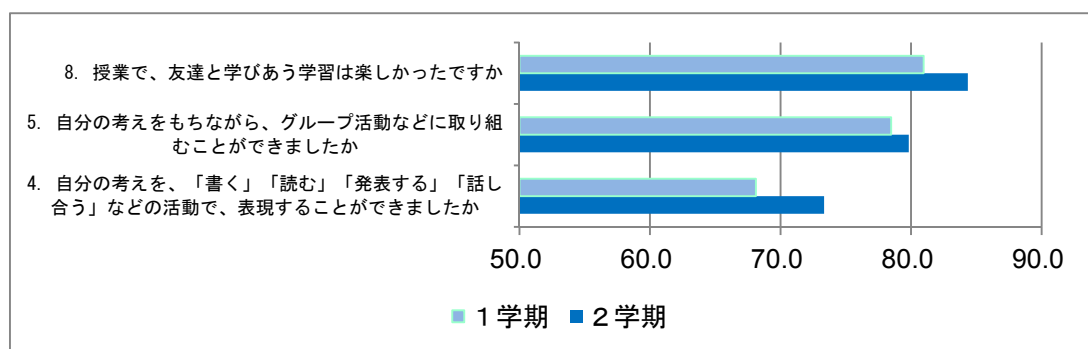
また、必ず自分の考えなどを文章にまとめ、言葉で理解したり表現できたりすることができるよう意識して指導を行った。

5. 研究の成果

「自分は皆で協力などのことは苦手なのですが、最後の1年にして楽しむことができた。」

ある3年生男子の授業感想文にこのようなことが書かれていた。このことは、これまでの私たちの授業に対する反省と、私たちが今年度ねらいとしてきたことの成果達成に対する評価として受け止めたい。

1学期末に全校生と対象に行った授業アンケート調査で、グループ学習に対して生徒は、概ねよい評価をしていたが、「人と話すのが苦手」と、回答している生徒もいたため、すぐにICTを活用して対話的な学習を始める前に、ホワイトボード・付箋などを活用した学び合い場のづくりからスタートすることにした。また、文字入力に不慣れな生徒も多いため、USB接続のキーボードを整備し、タブレットパソコンの有効活用ができるようにした。



全校生対象授業アンケート（1，2学期の比較）（図2）

2学期に入り、生徒たちは、課題に対する**グループの取り組みに深まり**が見えるようになってきた。学校図書館でタブレットパソコン、図書資料の活用などが円滑にできるようになってきた。特に、タブレットパソコンを使う調べ学習には強い関心を示すようになるとともに、操作スキルが向上し、質の高い成果物ができるようになってきた。

グループ学習コンテンツを使い、プレゼンファイルをグループで話し合いながら作り上げていくプロセスの中で、リアルタイムに他のグループから評価を得ることが、さらによいものを作り上げていこうとする意欲の高まりに繋がっていった。

生徒の感想（自由記述）

- ・このような学び方を学ぶ授業は初めてだったので新鮮だった
- ・勉強だけではなく、人との支え合いもあったので、仲間との思い出もできました。
- ・自分は今まであまりスピーチ等は得意じゃなかったのですが、この国語を通して、少しだけ得意になったと思います。
- ・ふだんでは学べない国語での疑問を解決してくれた授業があり、とても楽しかった文章の読み方や漢文について、いつもの授業では学べないことがたくさんわかったのですごく良い授業だった。



6. 今後の課題・展望

【縦と横のつながり】

“縦” は時間を表し、“横” は他教科への広がりを表す。

今年度は、手探りの中から、まずやってみることからスタートしたが、来年度以降は、小学校からの縦のつながりや、中学校 3 年間のスキルの積み上げや、他教科のつながりを明確にした年間指導計画を策定する取り組みが必要である。

【学習スキルのパッケージ化】

電子黒板の活用や班学習の取組など、国語だけでなく他教科への広がりがすでに進みつつある。今年度は、レポート作成で理科との連携、鑑賞文作成で美術科との連携が試みられたが、さらに他の教科へ広がることや、双方向のつながりが期待される。タブレットパソコンの活用やミニ・ホワイトボードの活用など、国語科で身につけたスキルを他教科でも円滑にいかせるよう、活用の仕方などをマニュアル化したパッケージ作成が必要である。



校区内小中学校合同研修会
(平成 29 年 8 月)

7. おわりに

3 年前に本校に着任した時、コンピュータ教室及び学校図書館の活用は皆無に近い状況だった。昨年度からこの状況を立て直すため、学校図書館の整備、コンピュータ教室での授業の試行、タブレットパソコンの保管場所を学校図書館へ移動するなどから始めた。そして、今年度から、新学習システム加配教員（兵庫県独自の加配）の教科を、英語・数学から国語・数学に変更し、人・物・学校予算を学校図書館に集中させた。このタイミングで、Panasonic 教育財団より研究助成をいただいたことは、本校教職員による取り組みに大きな弾みをつけることになった。

全国学校図書館協議会を通じて、佐藤敬子先生に指導助言のお願いをしたところ快くお受けいただいた。先生には、北海道から西宮にお越しいただき、私たちの取り組みにご指導、助言をいただくことができた。先生からは、私たちの取り組みに対して背中を押していただいたり、貴重なヒントをいただいたりすることができ本当に感謝しています。

本研究は、国語科の教員 6 名が試行錯誤を繰り返しながら進めてきたが、他教科の教員から、「生徒の書く文章が長くしっかりとしたものになってきた。」とか、「グループ活動が円滑に行えるようになった。」などという声が聞かれるようになってきた。早くも、他教科や総合的な学習の時間で、国語科以外の教員が積極的に、ICT や学校図書館を活用し始めてきた。そして、何よりもうれしいのは、グループで生き生きと活動する生徒の笑顔が増えたことと、教員が新しい学びのスタイルの指導に自信を持てるようになってきたことである。

8. 参考文献

佐藤敬子（2016）『楽しく進める「学び方の指導」』全国学校図書館協議会